



日本看護系学会協議会

ニュースレター

第 14 号

2010年11月1日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒252-8530

神奈川県藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学 看護医療学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail: jana-jimukyoku@sfc.keio.ac.jp

FAX: 0466-49-6225

～祝・日本看護科学学会公益社団法人化～

日本看護系学会協議会 会長 太田 喜久子



日本看護系学会協議会の会員学会である日本看護科学学会は、2010年6月1日付で公益認定され「公益社団法人日本看護科学学会」と名称が変更された。日本の看護系学会で初めての快挙であることをお祝い申し上げると同時に、本協議会としても誇りに思う次第である。

日本看護科学学会は30年の歴史を有し、学会の法人化に早くから取り組んできていた。2007年には有限責任中間法人を設立し、その後「公益法人制度改革関連三法」の施行で中間法人法が廃止され、2009年には「一般社団法人日本看護科学学会」として非営利型の運営を始めた。さらに学会の公益性を追求され、このたびの公益認定につながったのである。

日本学術会議は、学術団体のあり方について「そもそも、学術団体は、科学や技術などに関する学術研究の進歩・発展を図ることを目的として、主としてその当該分野の専門家が集まって構成するものである。その活動によって、自

主的・自律的に学術の発展に貢献し、特定の者の利益を追求せず、最終的にはこれらの活動によって社会の発展と平和及び福祉の向上に貢献することを目的としており、極めて公益性が高い」という提言(2008年5月)を出している。

学会は専門の学問の発達を探求すると同時に、そのことが社会や人々に役立つものとなることをめざすものである。看護界を取り巻く変動する社会の中で、ますます学会の果たすべき役割が求められてきている。その際「公益性」という理念とそれを踏まえた運営は、これからの学会のひとつの望ましいあり方を明確に示したものとえよう。

「公益社団法人日本看護科学学会」のこれからますますの発展を祈念し、そのことが看護学の発達と、看護系学会全体と本協議会の発展につながることを信じ、お祝い申し上げます。

看護専門分野における特定看護師（仮称）の検討

高度実践看護制度推進委員会 委員長 小松 浩子



特定看護師（仮称）の制度化に向けて、看護界はもとより医師をはじめとする他の医療職者間で侃々諤々の論議が起こっている。9月27日、第3回チーム医療推進のための看護業務検討ワーキングが開催され、「看護業務実態調査（2010年度厚生労働科学特別研究事業）」の結果概要が公表された。この調査は、特定機能病院、一般病院、診療所に勤務する看護師、医師8,104人より有効回答を得たものだ。203項目の医行為について、一般看護師あるいは特定看護師（仮称）が実施しているか、また、今後、実施可能であるか、を問うたものだ。すでに、マスメディアでは、医行為毎の実施率に着目し、一般看護師、特定看護師（仮称）が実施できる医行為の線引きが話題となっている。拙速な論議の中で、看護師の業務範囲、業務拡大の方向性が語られることに大きな懸念を抱いている。

今、必要な論点は、「役割拡大に向けて、看護の視点から医行為をどのように取り込む必要があるか?」を詳らかにし、医行為を実施することにより、患者のよりよい健康状態、

Quality of Life向上にどのように寄与できるかを示すことにある。

今夏、猛暑を押して、JANA会員学会のご努力により、看護専門分野における、これらの論議がすすめられ、本委員会に集約されている。改めて、会員学会の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。現在、委員会において、次のような視点から、会員学会の意見を取りまとめ、提言案を作成中である。①看護師が行った方が望ましい医行為とは、②看護師が医行為を行うことで、看護実践のレベルを高め、その結果、患者の健康状態、Quality of Life向上にどのように寄与できるか?、③「そのための、Responsibility, Autonomy, Authority, Accountability, Competenceを担保する教育、認定制度をどのように組織化して行うのか?」

できる限り早い時期に、提言案を会員学会にお届けし、更なるご意見を頂けるよう、鋭意努力中です。どうぞ引き続きご支援・ご指導を頂きますようお願い致します。

日本看護科学学会・日本看護系学会協議会共催講演会

平成22年8月24日、青山ダイヤモンドホール（東京都港区）にて、6月1日付で公益社団法人として認定された日本看護科学学会の「公益法人化記念講演会」に合わせ、日本看護科学学会と日本看護系学会協議会の共催による講演会が開催されました。日本看護科学学会の企画として、「学会と公益法人化」というテーマのもとに、内閣府公益認定等委員会企画官の小八木大成氏にご講演をいただき、各学会が公益法人化に進むための方法について、具体的に有益なお話をいただきました。当日資料として配布された「公

的認定等に関する運用について（公益認定等ガイドライン）」は、内閣府公益認定等委員会HP（公益法人information）：<https://www.koeki-info.go.jp/>よりダウンロードできます。

日本看護系学会協議会企画としては、「学術振興会研究助成、研究費等の獲得について」というテーマのもとに東北大学大学院医学系研究科の吉沢豊予子教授にご講演をいただき、看護学分野における科研費拡大のための課題について貴重な示唆をいただきました。

学術振興会研究助成、研究費等の獲得について

東北大学大学院医学系研究科 ウィメンズヘルス看護学分野 吉 沢 豊予子



日本看護科学学会が平成22年6月1日付で公益社団法人になったことをお祝いして、今回の講演会が設けられ、学術振興会研究助成・研究費等の獲得についてと題して、講演の場を与えられました。日本看護科学学会は日本学術振興会科学研究費補助金（以下「科研費」）の獲得のために尽力されてきた学会であり、また日本看護系学会協議会は看護学の分野がいか「科研費」にコミットしていくか精力的に取り組んでいる協議会です。また、私は平成18年4月から平成21年3月まで日本学術振興会学術システムセンターの専門研究員を務めていたこともあり、このお祝いの講演会で、科研費についてお話できますことを光栄に思いますとともに感謝申し上げます。

講演会では、「科学研究費補助金制度と看護学分野の現状」、「特別研究員」、「看護学における科研費拡大戦略のための課題」ということを述べさせていただきました。

1) 科学研究費補助金制度と看護学分野の現状：科研費は基礎から応用あるいは人文・社会科学から自然科学まであらゆる独創的・先駆的な学術研究に対し支援する補助金であり、ピア・レビューにより公正で透明性の高い・評価システムを構築している制度です。また年々予算額は伸びており、それに伴い採択数も伸びています。看護学分野は看護系大学数の増加とともに、その応募数・採択数が伸びています。しかし、研究種目でみると基盤（C）研究への応募が多く、採択割合は、どの分野においても一律であることから、ここに集中すると取りにくいということになるかもしれません。一方基盤B、A、Sへの応募数が、研究者の比からして少ないことから、看護学の研究には大きな

金額は回ってこないということにもなります。若手への研究支援は、日本学術振興会等の方針でもあり、若手の科研採択率に反映され、看護学分野においても若手を伸ばす支援になっていると思われます。

2) 特別研究員：特別研究員制度は日本がトップクラスの優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度となっています。大学院博士後期以降の学生が対象になりますが、看護学分野では博士後期課程を持つ大学が約60以上ありますが、看護系の分野から特別研究員の制度を利用している学生は非常に限られた数であり、認知されていることも少ないようです。私はこのことに非常に危機感を感じており、看護学の発展のため研究に専念できる環境を整えるためにもこの制度を利用できるように看護学分野で働きかけていく必要があります。

3) 看護学における科研費拡大戦略のための課題：看護学における科研費拡大戦略は、日本看護科学学会、日本看護系学会協議会がともに力を入れてきたものです。この戦略として、全体の応募数を増やすには1研究者1以上の応募運動が大切です。応募研究種目の見直し、先ほども述べましたが、手ごろな基盤研究（C）が多いことから、小規模研究から大規模研究へのシフトです。さらに看護学（スモールサイエンス）から融合分野、学際研究のリーダーになるための研究者養成に力を尽くすことが科研費の拡大であり、看護学の発展に繋がるのではないかと考えています。以上のようなことを述べさせていただきました。

平成22年度日本看護系学会協議会総会 議事録

日時：平成22年6月12日（土）13時00分～14時40分

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎2F 202 講義室

（〒160-8582 新宿区信濃町35）

出席：開会時26学会、終了時点では27の学会が出席した。

議事録作成者：日本看護系学会協議会事務局

資料

- 1) 庶務報告
- 2) 広報報告（ニュースレター、HP）
- 3) 第11回シンポジウム報告
- 4) モデル事業報告
- 5) ナーシング・サイエンス・カフェ事業報告
- 6) 科学研究費申請枠拡大推進活動報告
- 7) 学術会議との相互交流活動報告
- 8) 会計報告・会計監査報告
- 9) 規約改正：入会基準の改正について
- 10) 平成22年度 事業計画案
- 11) 高度実践看護制度推進委員会
- 12) 平成22年度 予算案
- 13) その他の審議事項（医療安全全国共同行動事務局よりの案内について）

次第

1. 定足数の確認（片田範子）

37学会中、全学会より回答を得、開会時26学会の出席、3学会より委任状があった。協議会規約第8条に基づき正会員の過半数の出席を得ており、本総会の成立が承認された。

2. 会長挨拶（太田喜久子）

本協議会の会員は現在、37学会と年々大きくなっており、今後も会員間の相互の連携が強くなるような活動にしていきたい。また、昨今、看護・医療をめぐるさまざまな動きがある中で、看護学会の取り組みや研究成果を通して、社会に対してどのように貢献できるのかを考え、またそれらをどのように発信していくかが課題である。本日の総会では、今年の活動および今年度の活動についてご審議いただきたい。また、総会終了後は、高度実践看護制度あり方検討会を計画しているのでご参加いただきたい。

3. 議事録確認者の承認

議長、会則6条2項に基づき会長太田会長にお願いする。

議事録案は事務局で作成し、議事録確認署名人に確認をお願いしたい。

議事録確認署名人として次の2名が承認された。

亀井 智子（日本在宅ケア学会）

吉沢豊子（日本母性看護学会）

議事録は、役員会で確認された後に、2名の議事録確認者による署名を経てニュースレターにて報告する予定である。

4. 報告・審議事項

1) 平成21年度活動報告と承認

(1) 庶務報告（小松浩子）（資料1）

- ・現在の会員数37学会、日本看護医療学会、日本看護倫理学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の3学会が入会があった。
- ・平成21年度、役員改選に伴い事務局が聖路加看護大学内から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに移転した。
- ・役員会は、平成21年度に4回実施した。22年度は2回実施した。
- ・1年間の役員会における主な議題として、第11回シンポジウム（配布資料で第10回となっているところは第11回に修正してほしい）、INRの特集記事への編集および執筆協力について、高度実践看護制度のありかた検討会、入会の基準について等について検討した。

(2) 広報（ニューズレター・HP） 報告（田中美恵子）（資料2）

- ・ニュースレター12、13号を発行し、会員および関係団体に配布した。
- ・HPの維持、管理で会員情報の更新、第11回シンポジウムの案内と報告を掲載した。
- ・HP上に会員情報の広場をつくり、会員学会の学会情報等を掲載している。情報掲載を希望する場合は、事務局を経由して依頼してほしい。
- ・第1回「高度専門看護あり方検討会」の議事録を近日中にHPに掲載する予定である。

・平成22年度は、ニュースレター14、15号の発行およびHPの維持・管理を予定している。

(3) 第11回シンポジウム報告（遠藤俊子）（資料3）

- ・第11回日本看護系学会協議会シンポジウムを「看護キャリア発達に向けての学会の役割」テーマで幕張メッセにおいて第29回看護科学学会の会期にあわせて開催した。
- ・シンポジスト3名（小松浩子、数間恵子、片田範子）のプレゼンの後、フロアーとの活発な意見交換を行った。
- ・平成22年度は、第12回シンポジウムを第30回日本科学学会の会期中（12月3日または4日）に札幌で予定している。シンポジストは現在交渉中である。

(4) モデル事業報告（手島恵）（資料4）

- ・平成21年3月末に19学会より名簿協力を得て、98名の看護系調査委員候補者の推薦を受けた。その中から、愛知地区2名、東京地区1名、新潟地区1名、仙台地区から1名（オブザーバー）推薦した。
- ・これまでは、日本内科学会に中央事務局においてモデル事業として行われてきたが平成22年4月より一般社団法人日本医療安全機構に名称が変わり、モデル事業が継承されることになり、6月30日に説明会が開催される予定である。

(5) ナーシング・サイエンス・カフェ事業報告（小松浩子）（資料5）

- ・カフェを開催した学会は5学会で、本協議会ではカフェ参加者にグッズを提供する支援をしている。開催を予定している学会は必要事項を記入して事務局まで申し込んでほしい。
- ・5つめの学会は、第20回日本小児看護学会に訂正。

(6) 科学研究費申請枠拡大推進活動報告（島内節）（資料6）

- ・科研費申請枠拡大のための活動であるが、最終的には日本学術振興会への提出に向けての準備資料と考えている。
- ・資料6に沿って、細目別採択件数、設置主体別採択件数、研究種目別採択件数、補助金獲得額の推移等についてデータの説明があった。

(7) 学術会議との相互交流活動報告（南裕子）（資料7）

- ・日本学術会議は、内閣府に所属しているが、2009年は「日本の展望」という提言作成に向けて組織をあげて取り組み、「日本の展望—学術からの提言2010」が発表した。「日本の展望」は、6年ごとに改定しながら継続して発信していく。
- ・「日本の展望」委員会からは、14の提言と31の報告書が出されているが、すべてHPで公開されている。
- ・「日本の展望—生命科学からの提言」の作業委員会に入っている。この中で看護、ケアの問題が学術会議の中で位置づけられるようになった。また、臨床医学分野の展望の中では、臨床医学委員会のメンバーのほとんどが臨床医で、看護師は1名だけであるが、チーム医療の基本になる考えが示されており、看護の役割が明確に述べられている。
- ・健康・生活科学分野の展望では、健康・生活科学委員会の委員長を務め、この分野に関する課題を網羅しており、看護関係もかなり含まれている。
- ・21世紀の教養と教養教育、人間中心のアジア、世界に活躍するアジア互恵・互啓・協働の精神について等、資料をご覧の上、その詳細はHPを参照されたい。

・総合科学技術会議では、第4期科学技術基本計画の見直しがあったが、ここでは、医薬品に加えて、看護が頭出しされるようになった。

・国際的には、G8サミットで「母子の健康の推進」及び「開発のためのイノベーション」について、提言をまとめた。

・日本学術会議には、看護学の連携会員15人が活動している。

・日本学術会議は、各学会の公益法人化をすすめている。人間ドック学会に続いて、日本看護科学学会が認定され、看護系学会の公益法人化に向けてあしかりとなった。

(8) その他（小松浩子）

- ・高度実践看護師の在り方について検討してきたが、関連団体と連絡調整も必要であることから、役員会において「高度実践看護師の在り方について検討会」を実施した。2月に厚労省から報告書が発表され、特定看護師（仮）の具体的な法制化が進みはじめた。こうした経緯も踏まえて、本協議会の中にも「高度実践看護師制度検討委員会」設置が認められた。

平成21年度の活動報告についての質問・意見

- ・日本助産学会（近藤潤子）：資料6について、細目分類について協議会では了承しているのか？生涯発達学のキーワードに助産学が含まれて

いるが、これではよいとは思わない。キーワードではなく、もっと上の枠組み(細目等)の中にいれてもらいたいと考えている。助産学会でも検討しているが、科研費の申請のバランスとして現在のキーワードで適切であると考えているかどうか。

また、p.10の表6にある母性・女性看護学と助産学との関連はどうか。島内理事：申請件数、採択率も関連すると思われるため、どのような戦略があるか検討いただき、よい考えがあればご指導いただきたい。

資料の用語は公表されている内容の集計であり、加工したものではない。南理事：本協議会としてキーワード、細目の立て方に関して検討する予定はあるか否かの質問だと思われるが、議論の必要性がある場合は改めてご案内をしたい。

以上、平成21年度の事業報告について承認された。

2) 平成21年会計報告と承認

(1) 会計報告(河口てる子)(資料8)

・平成21年度会計について報告された。(河口てる子)

(2) 会計監査報告(資料8)

・平成21年度会計監査結果について報告された。(川島みどり)

以上、平成21年度の会計報告が承認された。

3) 規約改正:入会基準の改正(資料9)

・入会基準改正についての経緯が説明された。日本学術会議との連携という成り立ちから、日本学術会議協力学術研究団体の要件を満たす学会であることを入会基準として明記することとする。

・本協議会は、本日から適用されるものとし、すでに本協議会に入会している会員には影響しない。

改正案についての質問・意見

日本腎不全学会(宇田有希):看護学研究者、構成員の半数というのは該当しないかもしれない。看護学研究者の定義を教えてください。

太田喜久子:看護学研究者とは看護学の分野で新たな知識と活用する者としている。臨床で実践活動しながら研究する者も含んでいる。臨床家でも問題はない。

日本看護教育学会(永野光子):本学会は正会員であるが(2)①の要 閉会

件であるが、現在学会員は50名である。この規定があると会員にならない学会があるかと思う。今後の活動に何か影響することが考えられるか。太田喜久子:すでに会員である学会でも、すべての要件満たしていないところある。すでに承認されているので正会員であること、活動に関して支障はない。会員増については、各学会で努力してほしい以上、改正案は、参加29会員のうち25会員より賛成があり、承認された。

4) 平成22年度 事業計画案(太田喜久子)(資料10)

・資料10にそって事業計画の説明があった。

・今年度より「高度実践看護制度推進委員会」を設置した。

・高度実践看護制度推進委員会(小松浩子)(資料11)

今年度から委員会を設置し、6名の委員が選出されている。

検討会は、本日終了後に第2回が開催予定であるが、第3回も今年度の開催を計画している。

以上、平成22年度の事業計画案は承認された。

5) 平成22年度 予算案(河口てる子)(資料12)

・事業計画案にもとづき予算案を計上した。

以上、平成22年度の予算案は承認された。

6) その他の審議事項(太田喜久子)(資料13)

・医療安全共同行動推進会議、本会は協力団体である。活動費の協力がきている。

各会員学会で賛同いただけたらご協力をお願いしたい。

・日本精神保健学会(宇佐美しおり):各学会との各学会との連携については連携はとりやすいと思われるが、日本看護協会等、他の関連団体との連携についても十分に検討してほしい。本協議会の検討委員会が担う役割の大きさを考えて期待を述べた。

小松浩子:それも踏まえて、本日、この総会後に「あり方検討会」を計画している。

「第2回高度実践看護制度あり方検討会」のプログラムをもとに、会の目的と進行について説明があった。

日本看護系学会協議会会員名簿(平成22年9月15日)

会 員 名	会 員 名
・ 高知女子大学看護学会	・ 日本循環器看護学会
・ 聖路加看護学会	・ 日本小児看護学会
・ 千葉看護学会	・ 日本助産学会
・ 日本家族看護学会	・ 日本新生児看護学会
・ 日本看護科学学会	・ 日本腎不全看護学会
・ 日本看護学教育学会	・ 日本生殖看護学会
・ 日本看護管理学会	・ 日本精神保健看護学会
・ 日本看護技術学会	・ 日本赤十字看護学会
・ 日本看護教育学会	・ 日本地域看護学会
・ 日本看護研究学会	・ 日本糖尿病教育・看護学会
・ 日本看護診断学会	・ 日本難病看護学会
・ 日本看護福祉学会	・ 日本母性看護学会
・ 日本看護歴史学会	・ 日本慢性看護学会
・ 日本がん看護学会	・ 日本ルーラルナーシング学会
・ 日本救急看護学会	・ 日本老年看護学会
・ 日本クリティカルケア看護学会	・ 日本看護医療学会
・ 日本災害看護学会	・ 日本看護倫理学会
・ 日本在宅ケア学会	・ 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
・ 日本手術看護学会	

【役員】

会 長	太 田 喜久子
副会長(学術振興会)	大 片 田 範 子
副会長(庶務)	小 松 浩 子
理 事(企 画)	遠 藤 俊 子
理 事(会 計)	数 間 恵 子
理 事(会 計)	河 口 てる子
理 事(学術振興会)	島 内 中 節
理 事(広 報)	田 中 美 恵 子
理 事(モデル事業)	手 島 恵
理 事(企 画)	野 嶋 佐 由 美
理 事(庶 務)	宮 脇 美 保 子
理 事(学 術 会 議)	南 川 裕 子
監 事	川 嶋 み どり
監 事	金 川 克 子

庶務よりのお願

ナーシング・サイエンス・カフェグッズについて

グッズの提供を受けた学会は、終了後に参加人数を事務局まで報告していただきますようお願い致します。また、送付したグッズが10セット以上残った場合は、事務局までグッズを返却下さいようお願い致します。

お知らせ

文部科研費の平成25年度公募から適用する「系・分野・分科・細目表」に関する提案として、「高齢者に関する研究課題を、地域・老年から地域看護と高齢者看護に分離して単独の細目として配置すること」を、本協議会から日本学術振興会に提出しました。

一編集後記一

■ 同封の通り、第12回日本看護系学会協議会シンポジウムが「高度実践看護師の認定における学会の役割」と題して、札幌で開催される第30回日本看護科学学会学術集会の折に行われます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

(広報担当理事:田中美恵子)

日本看護系学会協議会会員学会

2010年10月1日現在

	学会名	理事長	学 会 連 絡 先				ホームページアドレス		
			郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX		学会 E-mail	宛先 (担当者)
1	高知女子大学看護学会	松本女里	781-0111	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-5524	(088)-847-5524		松本女里	http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html
2	聖路加看護学会	山田雅子	104-0044	東京都中央区明石町10-1	(03)-3543-6391	(03)-5565-1626		山田雅子	http://sinr.umin.jp/
3	千葉看護学会	宮崎美砂子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内		(043)-226-2421	marikomj@faculty.chiba-u.jp	増島麻里子	http://cans.umin.jp/
4	日本家族看護学会	石垣和子	261-0014	千葉県千葉市美浜区若葉2-10-1 千葉県立保健医療大学健康科学部内	(043)-272-2869	(043)-272-2869	family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp	石垣和子	http://square.umin.ac.jp/jarfn/
5	日本看護科学学会	片田範子	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	(03)-5805-1280	(03)-5805-1281	jans-office@umin.ac.jp	片田範子	http://jans.umin.ac.jp
6	日本看護学教育学会	小山真理子	105-0012	東京都港区芝大門2-12-6 芝ハタビル402	(03)-5472-7455	(03)-5472-7465	jimukyoku@jane-ns.org	小山真理子	http://www.jane-ns.org
7	日本看護管理学会	鶴田恵子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内 日本看護管理学会事務局	(03)-3409-1290	(03)-3409-1290	janap@redcross.ac.jp	鶴田恵子	http://janap.umin.ac.jp
8	日本看護技術学会	小坂橋喜久代	371-8511	群馬県前橋市昭和町3-39-22 群馬大学医学部保健学科 統合医療プロジェクト室内	(027)-220-8907	(027)-220-8907	jsnas@health.gunma-u.ac.jp	小坂橋喜久代	http://www.jsnas.jp/
9	日本看護教育学会	永野光子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部看護教育学研究分野野付	(043)-226-2397	(043)-226-2397	jasne-office@umin.ac.jp	舟島なをみ	http://jasne.umin.jp
10	日本看護研究学会	山口桂子	260-0015	千葉県千葉市中央区富士見 2丁目22番6号富士ビル6階	(043)-221-2331	(043)-221-2332	jsnr@bridge.ocn.ne.jp	山口桂子	http://www.jsnr.jp
11	日本看護診断学会	小田正枝	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキレビル(株)グローバルエクスプレス・国際会議センター内	(03)-3352-6223	(03)-3352-5421	jsnd@convention-access.com	任和子	http://jsnd.umin.jp/
12	日本看護福祉学会	岡崎美智子	810-0072	福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 国際医療福祉大学福岡看護学部天神キャンパス内	(092)-739-4321	(092)-739-4343	okazaki-m@iuhw.ac.jp	岡崎美智子	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/
13	日本看護歴史学会	芳賀佐和子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0613	(03)-3409-0589	yamazaki@redcross.ac.jp	山崎裕二	http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
14	日本がん看護学会	鈴木志津枝	651-2103	兵庫県神戸市西区学園西町3-4 神戸市看護大学内		(078)-794-8525	iinok@adm.ncn.ac.jp	飯野京子	http://jscn.umin.jp
15	日本救急看護学会	中村恵子	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内	(03)-3384-8030	(03)-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp; jaen-adm@umin.ac.jp	中村恵子	http://jaen.umin.jp
16	日本クリティカルケア看護学会	井上智子	113-8519	東京都文京区湯島1-5-45 医科歯科大学大学院保健衛生学研究科先端看護看護学看護学分野内		(03)-5803-0156		井上智子	http://jacn.umin.jp/
17	日本災害看護学会	山田覚	781-0111	高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-8705	(088)-847-8705	jsdn@univcoop.or.jp	竹崎久美子	http://www.jsdn.gr.jp/
18	日本在宅ケア学会	白澤政和	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F(株)ワールドプランニング 内 日本老年看護学会事務局	(03)-5206-7431	(03)-5206-7757	world@med.email.ne.jp	白澤政和	http://plaza.umin.ac.jp/~jahhc/
19	日本手術看護学会	菊地京子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	(03)-3813-0485	(03)-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星正行	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
20	日本循環器看護学会	吉田俊子	981-3298	宮城県黒川郡大和町学苑1番1 宮城大学看護学部 吉田研究室内日本循環器看護学会事務局 淡路 理智子	(022)-377-8242	(022)-377-8242	yosidats@myu.ac.jp	淡路理智子	http://janap.umin.ac.jp
21	日本小児看護学会	及川郁子	166-8532	東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本小児看護学会事務局	(03)-5307-1175	(03)-5307-1196	jschn@univcoop.or.jp	及川郁子	http://jschn.umin.ac.jp/
22	日本助産学会	堀内成子	111-0054	東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階	(03)-3865-3032	(03)-3866-3032	jam1987@ninus.ocn.ne.jp	松岡 恵	http://square.umin.ac.jp/jam/
23	日本新生児看護学会	横尾京子	734-8553	広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科内	(082)-253-4636	(082)-253-4636	yokoo@hiroshima-u.ac.jp	藤本紗央里	http://square.umin.ac.jp/~shinseij/
24	日本腎不全看護学会	水附裕子	231-0013	神奈川県横浜市住吉町1-4 第3白井ビル5-A	(045)-226-3091	(045)-226-3092	y.uda@kki.ac.jp	宇田有希	http://www11.ocn.ne.jp/~jann1/
25	日本生殖看護学会	森明子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内 日本生殖看護学会事務局	(03)-6226-6380	(03)-6226-6380	jsin@slcn.ac.jp	森明子	http://jsin.umin.jp
26	日本精神保健看護学会	田中美恵子	169-0075	東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献印刷社内	(03)-5389-6254	(03)-3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	野末聖香	http://www.japmhn.jp/
27	日本赤十字看護学会	濱田悦子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-5485-5777	(03)-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	川嶋みどり	http://jrcsns.umin.ne.jp/
28	日本地域看護学会	村嶋幸代	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部地域看護学教室内 日本地域看護学会事務局		(03)-5841-3648	chikango-acd@umin.ac.jp	永田智子	http://jachn.umin.jp/
29	日本糖尿病教育・看護学会	嶋森好子	170-0004	東京都豊島区北大塚3-21-10 アールパン大塚3F(株)ガリレオ学会業務情報化センター内 日本糖尿病教育・看護学会事務局		(03)-5907-6364	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	嶋森好子	http://jaden1996.com/
30	日本難病看護学会	牛込三和子	183-8526	東京都府中市武蔵台2-6 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門内	(042)-325-3881	(042)-328-7311	nanbyo@auhw.ac.jp	牛込三和子	http://square.umin.ac.jp/intrac/

日本看護系学会協議会会員学会

2010年10月1日現在

学 会 名	理 事 長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail	宛先 (担当者)	
31 日本母性看護学会	高橋 眞 理	252-0329	神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部内 日本母性看護学会事務局	(042)-778-9826	(042)-778-9826	jsmn@mcn.ac.jp jsmn@nrs.kitasato-u.ac.jp	竹 明 美	http://www.mcn.ac.jp/bosei/
32 日本慢性看護学会	野 並 葉 子	673-8588	兵庫県明石市北王子町13-71 兵庫県立大学明石キャンパス	(078)-925-9447	(078)-925-0878	chronic.n@cnas-u-hyogo.ac.jp	河 口 てる子	http://jscicn.com/
33 日本ルーラルナース ング学会	野 口 美和子	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	(0285)-58-7512		ynagai@jichi.ac.jp	永 井 優 子	http://www.jasrun.org/
34 日本老年看護学会	太 田 喜久子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワ ビル2F (株) ワールドプランニン グ内 日本老年看護学会事務センター	(03)-5206-7431	(03)-5206-7757	world@med.email.ne.jp	太 田 喜久子	http://www.rounenkango.com/
35 日本看護医療学会	梶 田 悦 子	461-8673	名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学医学部保健学科看護学 専攻内 日本看護医療学会事務局	(052)-719-1922	(052)-719-1922	fonishi@fujita-hu.ac.jp	大 西 文 子	http://www.jsnhc.org/leftpages/ask/ask.html
36 日本看護倫理学会	高 田 早 苗	135-8550	東京都江東区有明3-8-31 癌研有明病院 看護部内 濱口恵子			keiko.hamaguchi@jfc.or.jp	濱 口 恵 子	http://ine.umin.jp/
37 日本創傷・オスト ミー・失禁管理学会	真 田 弘 美	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラム ダックスビル10階 (株) 春亜社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	(03)-5291-6231	(03)-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	真 田 弘 美	http://www.etwoc.org/